

徳山ダムに係る導水路検討会（第15回幹事会）

日時：平成20年3月21日（金）

議事次第

1. 開会
2. 議事
 - 1) 水源地の保全と活性化に係る意見交換
 - 2) その他
3. 閉会

平成19年6月13日

木曽川水系連絡調整会議 確認事項

(1) 施設計画について

第6回検討会において優位と認められた木曽川水系連絡導水路の上流ルート案について具体的な検討を進めた結果、木曽川への導水量の一部を、上流に河川維持流量の補給手段を有しない長良川を経由して導水する上流分割案とすることを確認した。

(2) 事業主体について

木曽川水系連絡導水路は治水と利水の目的を持った水系総合運用*の中心的施設となるものであり、徳山ダム等との一元的な建設及び施設管理が必要であることから、事業主体を独立行政法人水資源機構へ承継する方針について確認した。

(3) 平成20年度事業内容について

事業実施に向けさらにコスト縮減に努めるとともに、木曽川水系連絡導水路は、上記の方針に基づき、平成20年度の新規建設着手に向け予算要求することを確認した。

(4) 長良川河口堰利水導水事業との連携について

木曽川水系全体の利水安全度をより向上させるための長良川河口堰利水導水事業との連携に向けて、両事業の関係を整理しつつ、水質等への影響に対して取水方法等の検討を開始するとともに、関係者との調整を行うことを確認した。

(5) 水源地域の保全と活性化について

今後も引き続き、上下流県市が連携し、水源地域の保全と活性化のために協力していくことを確認した。

* 水系総合運用とは、木曽川水系における水資源開発施設を効率的に運用することで、利水者が等しく恩恵を受けられる方法

徳山ダムに係る導水路検討会（第7回） 議事要旨

日 時：平成19年8月22日（水）

場 所：愛知県三の丸庁舎 601 会議室

出席者：国土交通省中部地方整備局河川部長（座長）

岐阜県県土整備部長

愛知県地域振興部長（代理：水資源監）

愛知県建設部長（代理：技監）

愛知県企業庁水道部長

三重県政策部長

三重県県土整備部長

名古屋市上下水道局技術本部長

配付資料：

次第

説明資料

参考資料

議事要旨

徳山ダムに係る導水路検討会は、以下の事項を確認し、今後必要な手続きを踏まえていくことに合意した。

1. 木曽川水系連絡導水路について

（1）施設計画

第6回検討会において優位と認められた木曽川水系連絡導水路の上流ルート案について具体的な検討を進めた結果、木曽川への導水量の一部を、河川維持流量の補給手段を有しない長良川を経由して導水する上流分割案とする。

（2）事業主体について

事業主体を独立行政法人水資源機構へ承継する方針について確認した。

（3）平成20年度事業内容について

上記の方針に基づき、平成20年度に新規建設の段階に移行することを確認した。なお、事業主体に対し、さらなるコスト縮減に取り組むことを要求していく。

2. その他

（1）水系総合運用

木曽川水系における水資源開発施設を効率的に運用する水系総合運用の必要性を確認した。なお、水系総合運用は他の利水関係者も含めた場で検討していく。

(2) 水源地域の保全と活性化について

今後も上下流県市が連携し、水源地域の保全と活性化のために、さらに協力していくことを確認した。

2008年(平成20) 1月16日(水曜)

2011-12-12

德山
一
橫

真つ暗な地下導水管を伝つて……

ダムに貯まつた水には大量の藻類の発生が予想されます。そして今でも長良川より濁度の高い揖斐川の水が、ダムでさらに濁りを増し、真つ暗な導水管の中を駆け下つて来ます。藍藻、春の小川、のように明るくい日ざしの下、種々のいのちと係わりながら合流して来る、馴染みのある川の水とは違います。当然その水は一般河川に比べ冷たく濁つた水になるでしょう。私たちはこんな水が長良川に、しかも鵜飼の舞台の下真ん中に放流されることをたいへん憂慮しています。

長良川は「用水路」ではない。

元來このダムの水は、都市用水となるべきものでしたが、水余りの時代になつて用無しになつてしまいました。そんな水を遇水時にはさらに毎秒4.7立方メートルにまで増やす計画になつていますが、もし、異常満水になつた時などには長良川の水の半分ちかくがダムの水になつてしまいます。上流からはダムの水、そして下流には河口堰……。まるで長良川は川ではなく用水路のようになり、河口堰のゲートは永遠に「開かずの扉」になつてしまふでしょう。私たちは長良川がいつまでも豊かな生態系に恵まれた美しい川であることを望んでいます。

※岐阜県負担分29・7億円は岐阜県の治水予算から支出されます。

●市民学習会 [長良川]

2008年1月16日(水)6:30 pm~8:30 pm

其理

ハートフルスクエアG 大研修室

2 陸軍陸防

00
新報

主催：「長良川に徳山ダムの水はいらない」実行委員会

代表/粕谷志郎 岐阜大学地域科学部教授

事務局/武藤 仁：090-1284-1296 岐阜市日野東7-11-1 muto@mb.i-chubune.jp

◆学習
から報
で、海

曜日)

6

2/2

いま、私たちが山梨水明の川として長年親しんできた長良川に徳山ダムで貯まった水を地下に造った導水管を通して流そう、という計画があります。場所は岐阜市の千鳥橋付近、毎年開催される輪綱のスタート地点の近くです。

「木曾川水系連絡導水路計画」

4年前の2004年に国と岐阜県・愛知県・三重県・名古屋市の「徳山ダムに係わる導水路検討会」で検討されてこの導水路計画が出来上がりました。そして、昨年8月、三原一市は何の情報公開もないまま、徳山ダムからの導水の一部、平常時毎秒0.7立、洪水時毎秒4.7立の水を長良川へ放流し、下流の岐阜県海津市で木曾川へ送るという計画案に合意をしました。建設費は890億円(※岐阜県の負担分は29・7億円)で来年度予算要求に15億円の工事、盛り込まれます。



「に徳山ダムの水はいらない」

寅「ダムが河川に及ぼす影響」

：村上 哲生 (名古屋女子大学教授)

揖斐川の源流、徳山ダムがせき止める湖(浜名湖の約2倍の容量)から流れてくる水は、清流長良川を変えてしまうのではないかと多くのダム湖を調査してきた研究者の語からまなびます。

7月会では「木曾川水系連絡導水路建設計画」の説明と問題点を実行委員会報告いたします。その際、国土交通省などの関係資料を配付いたしますの送料代として500円を会場で頂戴いたします。

◆ 郵便局に振替口座を開設しました ◆
口座番号 0080-7-88259
口座名称 粕谷志郎 (カスヤ シロウ)

※振替会費の寄付金等の振込みにご利用ください。

2008年(平成20) 1月19日(土曜日)

21

岐阜市に情報
公開など要請

徳山ダム導水路計
画反対の市民団体

徳山ダム(揖斐郡揖斐川町)の水を長良川などに放流する「木曽川水系連絡導水路計画」に反対する市民グループ「長良川に徳山ダムの水は要らない」市民学習会実行委員会(代表・粕谷志郎岐阜大教授)は十八日、岐阜市役所を訪れ、市民への情報公開などを要請した。

実行委のメンバー十人が訪問し、後藤昇基盤整備部長に市長あての要請書を手渡した。同実行委は、放流されるダムの水が、川の水質や鮎などの生態系に悪影響を及ぼすことを懸念し、これまでに市民学習会や独自の水質実験などを実施。要請書では▽市民に開かれた説明会を開く▽計画が市民に知らされていないことや、市民の要望でないことを踏まえ、計画の「中止」「留保」を国に要求することなどを求めている。

粕谷代表は「冷たく濁ったダムの水が、長良川を変えてしまうと懸念している。美しい川を守るため、市も真摯(しんし)な姿勢を示してほしい」と要請。市側は「国に対しては、放流による環境への影響を調査するよう要請している」など応じた。

2008年(平成20) 2月20日(水曜日)

18

長良川経由の 送水白紙撤回を

徳山ダム・市民
団体が県に要請書

市民団体の「長良川

に徳山ダムの水は要ら

ない」市民学習会実行

委員会(粕谷志郎代表

は19日、徳山ダム(揖

斐川町)の水の一部を

長良川経由で木曽川に

送る「上流下流分削案

の白紙撤回を求める要

請書を県に出した。

要請書には、東海3

県と名古屋市の分削

案合意の撤回のほ

か、分削案の決定に至

る議論の内容を県民に
明らかにすることなど
を盛り込んだ。

要請書を受け取った

清水晃・県河川課長は

「分削案は東濃地域の

渇水対策に役立つ」な

どとして白紙撤回は考

えていないと答えた。

粕谷代表らは「徳山ダ

ムの底にたまった水が

長良川に流れること

で、清流・長良川でな

くなってしまふ。今後、

国交省も交えた計画に

対する意見交換の場を

設けてほしい」と訴え

【鈴木敬子】

河 第 770 号

平成20年3月3日

国土交通省中部地方整備局長

金 井 道 夫 様

岐阜県知事 古 田 肇



木曽川水系河川整備計画の策定について（意見の回答）

平成20年2月6日付け国部整河計第70号による意見の照会について、下記のとおり回答します。

記

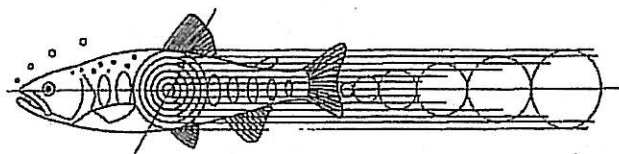
- 1 長良川における遊水地等の整備にあたっては、その計画段階から、岐阜県をはじめとする関係機関や地域住民に十分な説明を行い、関係者の理解を得つつ進められたい。
- 2 長良川は、自然豊かな河川であり、それを生かした鵜飼や水道水として利用するなど流域住民の生活と密接な関係にあることから、良好な河川環境を保全する必要がある。よって、木曽川水系連絡導水路を整備する前提として、良好な河川環境に与える影響を多方面から十分調査検討し、その検討経緯及び結果を全て公開し県民に丁寧に説明されたい。また、木曽川水系連絡導水路による環境への影響が明らかになった時点で、再度岐阜県の意見を聴かれたい。それまでは、工事に着手しないこと。
- 3 木曽川水系連絡導水路ルート上の地元住民感情に十分配慮し、関係河川の上下流地域が、円滑に協力していけるよう幅広く調整されたい。

22

多方面で調査結果公開を

中部地整に
知事が意見
長良川への環境影響

徳山ダム（揖斐川町）を説明することなどを求め、整備計画」について関係四県の知事に対し提言を求め、古田知事は「導水路による環境への影響が明らかになった時点で、再度、県の意見を聞き、それまでは工事を着工しないこと」とくぎをさすと同時に「導水路ルート上の住民感情に十分配慮し、関係河川の上下流域が、円滑に協力していけるよう幅広く調整を」と付け加えた。



清流長良川が 死んでしまおうゾ

そんな計画がいま私たちの知らないところで、7年後（2015年）の完成をめざし着々と進められています。国土交通省の「木曽川水系連絡導水路計画」と言い、徳山ダムに貯められる水を、直径約4メートルの地下トンネルを通して木曽川だけでなく長良川にも流そうという計画です。しかもその放流場所が千鳥橋のすぐ下流（岐阜市長良古津）というからビックリ！冷たく濁ったダムの水がなんと千三百年もの歴史を誇る「長良川の鵜飼」の舞台のすぐ上流に放流されるワケですから、これはもう黙って見過ごすことは出来ません。市民のみなさん、長良川の清流を守るため、ひとりでも多くこの市民シンポジウムに参加して、コトの重大さを知ってください、そして広めてください。

「長良川に徳山ダムの水はいらない」 市民シンポジウム

3月23日（日） 長良川国際会議場・国際会議室
1:30 pm～4:30 pm

〈講演1〉ヤマトシジミに導水路は必要か？ 講師：山内克典（岐阜大学名誉教授）

〈講演2〉導水路と水需要・費用負担 講師：富樫幸一（岐阜大学教授）

〈シンポジウム〉長良川に徳山ダムの水はいらない

コーディネーター／粕谷志郎：長良川市民学習会代表

パネラー／山内克典（同上）、富樫幸一（同上）、津田卓二（釣り人&獣医師）他依頼中

2004年(平成16年)に、国と岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市の3県1市により「徳山ダムに係る導水路検討会」が設置され、木曽川、長良川、揖斐川を結ぶ「木曽川水系連絡導水路計画」が検討されてきました。昨年8月、密室協議の中、突如3県1市は導水の一部、平常時毎秒0.7㎡、濁水期4.7㎡の水を、岐阜市の千鳥橋あたりで長良川に放流し、下流の岐阜県海津市で背割堤を越して木曽川へ送るという計画に合意しました。国はすでに2年間にわたって現場調査をしているにもかかわらず、その情報は隠し通したままです。

今回の導水路は、その分の水を流す目的ですから、建設費は国民・県民の税金から支出されることになります。自分たちの税金でふるさとの川を殺してしまうなんて、こんなバカげた話はありません。次の世代に、いつまでもきれいな長良川を残すためにもこの導水路建設を絶対許してはなりません。

●長良川が一望できる会場で、長良川を語りあいましょう

11